

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		アスラボふくい					公表日			2026年 1月 16日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点						
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		限られたスペースの中で利用者の特性に合わせて集中できるように机等の配置に気を付けている。							
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○									
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○									
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○									
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○									
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○									
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		関係機関や外部の方の見学を積極的に受け入れていき、業務について見直せる機会を設けていく。						
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		オンラインでの研修等を活用して、支援技術の向上をめざして。 他事業所も参加する学習会にも積極的に参加している。	勤務時間内での研修時間の確保。						
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○									
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○									
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○									
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○									
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○									
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○									
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○									
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○									
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○									

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校と連携できるように積極的に支援会議に参加している。また他事業所との合同学習会等にも参加し地域の情報について情報交換している。	医療とも連携できるように積極的に情報共有していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		小学校4年生以上を対象としているため、保育園等と情報共有する機会を持てなかった。今後は必要に応じて情報共有をしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		開業して1年未満のため卒業予定者が在籍していないが、今後対象となる利用者が出てきた際には保護者・本人に同意を得て情報提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		対象年齢を小学校4年生以上に設定し、学習支援をメインにしているため交流の機会はないが、今後は必要に応じて交流をしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	インターネットを利用して傍聴している。	社会の動向や施策について知る機会の確保や地域のニーズについて把握していくために参加について前向きに検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後開催ができるように調整をしている。どのような内容が良いかについては保護者からの要望を聞いていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		利用者の活動の成果を発表する場を設けている。その際には保護者・兄弟が交流できるような場も同時に設けている。	参加してくれる家族が増えるように声かけをしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の記録や連絡にはICTを活用し、保護者と情報を共有している。SNSを活用して活動の写真等も発信している。	事業所のことを知ってもらえるよう定期的に外部に向けた通信等も作成し、発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭での連絡や聞いたことを忘れてしまうなどに対応するため、メールなどを活用している。その際のルールについても分かりやすく表示している。	情報リテラシーについて学ぶ機会を設けていき、SNS等を使うときのルールを定期的に確認する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		開業して間もないため地域の方との関りが持てていない。こちらから情報を発信していくことで多くの人に知ってもらう。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットのに該当する事案が今の所発生していないが、今後必要に応じてしっかり共有し、事故防止に努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			